

研究

フランスの交通警察 (完)



武若時一郎

附録

千九百二十二年十二月三十一日令

改正
（一九二五年九月二二日令）
（一九二七年四月二二日令）
（一九二八年八月二一日令）
（一九二九年一〇月四日令）

第一條 一般通行ノ用ニ供スル道路ノ使用ハ、本則ノ定ム

ル所ニ依ル。

第一章 各種車輛、挽獸、馱獸及ビ乘獸ニ

關スル規定

輪帶ノ路面、上ノ壓力、形狀及ビ性質

第二條 車輛ガ路面ニ及ボス壓力ハ、如何ナル場合ニ於テ

モ、輪帶幅一「センチメートル」ニ付百五十「キログラ

ム」ヲ超ユルコトヲ得ズ。此ノ幅ハ新シキ輪帶ガ普通ノ

運轉状態ニ於テ、硬キ路面ト接觸スル部分ニ付之ヲ測定

ス。

2 金屬性輪帶ハ路面ト接觸スル面ニ突出部ヲ有スベカラズ。此ノ規定ハ、農家ト田圃トノ往復ニ付テハ、動物ノ牽引ニ依ル農具及ビ農業ノ用ニ供スル自動車輛ニ之ヲ適用セズ、但シ之等ノ機具及ビ車輛ノ車輪又ハ無限軌道ハ公道ニ異常ノ損傷ヲ生ゼシメザル様之ヲ處理スベシ。

3 人及ビ貨物ノ運送ノ用ニ供スル自動車輛ノ車輪並ニ其ノ被牽引車ノ車輪ハ、總テ護謨製其ノ他彈力ノ點ニ於テ之ト同等ナル組織ノ輪帶ヲ備フベシ。

4 外脫ヲ防グ爲護謨性輪帶ニ附着スル釘鉸ハ、銳稜ヲ有セズ且ツ廻轉面ヨリ四「ミリメートル」以上突出セザル直徑十「ミリメートル」以上ノ圓形平坦ナル面ニ依リテ路面ニ接スベシ。

5 本則公布ノ際現ニ使用スル車輛ニ對スル本條ノ規定ノ適用期日ニ關シテハ、第六十條ヲ以テ之ヲ定ム。

6 本條ノ規定ハ、陸軍省及ビ海軍省ノ特殊器具ニ關シテハ其ノ用途ト兩立セザル範圍ニ於テ之ヲ適用セズ。

車輛ノ幅員

第三條 車輛ノ幅(總テノ突出部ヲ含ム)ハ、横斷面ニ於テ、如何ナル部分モ二・五〇「メートル」ヲ超ユルベカラズ。車軸端、車轂及ビ制動機關(總テノ附屬品ヲ含ム)ハ車輛ノ外廓ノ外ニ之ヲ突出セシムベカラズ。

2 左ニ掲グルモノニ關シテハ、前項後段ノ規定ニ依ラザルコトヲ得。

一 農具

二 動物ノ牽引ニ依ル車輛ニシテ、其ノ車體ガ車輪ノ内側ニ存スルモノ、又ハ翼若クハ泥除ヲ備ヘザルモノ。

此ノ場合ニ於テハ車軸、車轂又ハ制動機關(總テノ附屬品ヲ含ム)ノ先端ハ、輪帶ノ外緣ヲ過ル平面ヨリ〇・二〇「メートル」以上之ヲ突出セシムベカラズ。

3 本則公布ノ際ニ使用スル車輛ニ對スル前二項ノ規定ノ適用期日ニ關シテハ、第六十條ヲ以テ之ヲ定ム。

4 第一項及ビ第二項ノ規定ハ、陸軍省及ビ海軍省ノ特殊器具ニ關シテハ、其ノ用途ト兩立セザル範圍内ニ於テ之ヲ適用セズ。

5 鎖其ノ他可動又ハ遊動ノ附屬品ハ、動搖ニ因リ車輛ノ外廓ヨリ飛出スコトナク又路面ニ引摺ルコトナキ様、之ヲ車輛ニ定着セシムベシ。

點燈

第四條 總テ單獨ニ進行シ

又ハ公道ニ駐車スル車輛ハ、第二十四條ニ定ムル場合ヲ除クノ外、日没後ハ前面ニ白燈一個又ハ二個、後面ニ赤燈一個ヲ備フベシ（一九二九年一月五日令ヲ以テ改正）。

2 白燈（二個ノ場合ハ其中ノ一個）ハ、車輛ノ左側ニ之ヲ取附クルモノトス。赤燈ニ付亦同ジ（一九二九年一月五日令ヲ

以テ改正）。

第四條 單獨ニ進行スル車

輛ハ、第二十四條及ビ第三十七條ニ定ムル場合ヲ除クノ外、日没後ハ前方ハ白燈一個又ハ二個、後方ハ赤燈一個ニ依ル合圖ヲ爲サズシテ通行スルコトヲ得ズ。

2 白燈（二個ノ場合ハ其中ノ一個）ハ、車輛ノ左側ニ之ヲ取附クルモノトス。赤燈ニ付亦同ジ。車輛ノ全長（積荷ヲ含ム）

3 然レドモ農家ヨリ田圃へ又ハ田圃ヨリ農家へ赴ク農業用車輛ハ、手提燈一個ヲ點ズルコトヲ得。里道及ビ普通市町村道、並ニ例外的ニ、共通市町村道ノ區間ニ於テハ、之等ノ道路又ハ道路ノ區間ガ一般交通ニ關係ヲ有セズ且ツ縣令ヲ以テ之ヲ指定シ周知セシメタル場合ニ限り、一切ノ燈火ヲ用キザルコトヲ得。

4 手車ニ付テハ、燈火（着色ノ有無ヲ問ハズ）一個ヲ以テ足ル。

5 車輛ガ本則第十三條ニ定ムル條件ニ依リ縱列ヲ成シテ進行スル場合ニ於テハ、間隔ヲ置カズシテ續

ガ六「メートル」ヲ超エザル場合ニ於テハ、赤燈ハ前面左側ノ燈火ト同一ノ光源ニ依リテ之ヲ點ズルコトヲ得。

5 車輛ガ本則第十三條ニ定

ムル條件ニ依リ縱列ヲ成シテ進行スル場合ニ於テハ、間隔ヲ置カズシテ續

行スル二輛又ハ三輛ノ集

行スル二輛ノ集團毎ニ、

四 陸軍省及ビ海軍省ニ所屬スル輜重車、運搬車其ノ他

團毎ニ、最初ノ車輛ノ前

第一ノ車輛ノ前面ニ白燈

ノ車輛

面ニ白燈一個以上、最後

一個以上、第二ノ車輛ノ

五 専ラ警察事務ノ爲ニ使用スル自動車輛

ノ車輛ノ後面ニ赤燈一個

後面ニ赤燈一個ヲ掲グベ

六 土地ノ耕作、收獲物ノ運搬、農家ノ經營ニ使用スル

ヲ掲グベシ(一九二九年

シ。

車輛ニシテ農家ヨリ田圃ニ若クハ田圃ヨリ農家ニ赴キ

一〇月五日令ヲ以テ改

又ハ收獲物ヲ其ノ收獲シタル場所ヨリ耕作者ガ之ヲ保

正)。

藏若クハ集合スル場所迄運搬スル爲ニ使用スルモノ

表、示、板

第五條 第三十七條ニ定ムル自動車ニ特有ノ表示板トハ別

3 前項第三號及ビ第四號ノ車輛ニ掲グベキ特殊記號及ビ運

ニ、總テ所有者ハ其ノ所有ニ屬スル車輛ノ見易キ箇所ニ、

積荷ノ幅

讀易キ文字ヲ以テ其ノ氏名及ビ住所ヲ記載シタル金屬製

第六條 車輛ノ積荷ノ幅ハ二・五〇「メートル」ヲ超ユル

表示板ヲ貼付スルコトヲ要ス。

コトヲ得ズ、但シ知事ハ容積大ナル物件ニシテ此ノ條件

2 前項ノ規定ハ、左ニ掲グルモノニ關シテハ之ヲ適用セズ。

ニ依リテ積載スルコトヲ得ザルモノニ付、通行免許ヲ附

一 手車

與スルコトヲ得。此ノ免許ハ第十四條ノ定ムル所ニ依ル

二 動物ノ牽引ニ依ル車輛ニシテ人ノ運送ノ用ニ供スル

ベシ。

モ一般運送事業ノ用ニ供セザルモノ

2 農業用車輛ニ付テハ、收獲物ヲ農家ヨリ田圃ニ、田圃ヨリ

三 郵便官署ニ所屬スル車輛

農家又ハ市場ニ運搬スル爲ニ使用スル場合ニ限り、積荷ノ

幅ニ關スル總テノ規定ヲ之ニ適用セズ。尙稔又ハ秣ヲ積載シタル車輛ニシテ半徑二十五「キロメートル」内ニ存スル引渡地ニ赴クモノニ關シテハ、本條ノ規定ヲ適用セズ。

3 車輛ノ片側ニ取附ケタル固定式又ハ移動式ノ座席ハ、車輛又ハ其ノ積荷ノ幅ヨリ之ヲ突出セシメ、又ハ運轉者ガ座席ニ坐シタルトキ其ノ體軀ノ全部若クハ一部ガ車輛若クハ積荷ノ幅ヨリ突出スルガ如キ構造ト爲スベカラズ。

4 本條ノ規定ハ陸軍省及ビ海軍省ノ特殊器具ニ關シテハ、其ノ用途ト兩立セザル範圍内ニ於テ之ヲ適用セズ。

車輛ノ運轉及ビ動物ノ引卒

第七條 總テ車輛ニハ運轉者ヲ附スベシ、但シ本則第十三條及ビ第三十二條ニ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラズ。

2 挽獸、駄獸及ビ家畜ニハ引卒者ヲ附スベシ。

3 運轉者又ハ引卒者若クハ騎乗者ハ常ニ其ノ車輛ヲ操縦シ又ハ其ノ駕獸、乘獸、挽獸、駄獸若ハ家畜ヲ誘導スル狀態及ビ位置ニ在ルベシ。運轉者又ハ引卒者若クハ騎乗者ガ他ノ運轉者、引卒者若クハ騎乗者又ハ歩行者ニ接近シ

タルトキハ合圖ヲ爲スコトヲ要ス。運轉者又ハ引卒者若クハ騎乗者ハ車道ノ中央又ハ右側ヲ使用スルコトヲ得、但シ追越ス場合又ハ轉向上必要アル場合ヲ除クノ外、左側ヲ通行スルコトヲ得ズ。

4 獸群ノ引卒ハ、特ニ第五十六條ノ定ムル所ニ依ル。

速度

第八條 各種車輛又ハ挽獸、駄獸、乘獸其ノ他ノ動物ノ運轉者又ハ引卒者若クハ騎乗者ハ、市街地ヲ通過スルトキ及ビ道路ガ完全ニ自由ナラザルトキ又ハ見透ガ充分利カザルトキハ、常ニ徐行スベシ、

行違及ビ追越

第九條 各種車輛、挽獸、駄獸、乘獸其ノ他ノ動物ノ運轉者又ハ引卒者若クハ騎乗者ハ行違フトキ又ハ追越サムシムルトキハ右方ニ寄り、追越ストキハ左方ニ寄ルベシ。

2 運轉者又ハ引卒者若クハ騎乗者ヲ有スル車輛又ハ動物ニ接近シタルトキハ右方ニ避讓スベシ。行違ヒ又ハ追越ストキハ左方ヲ成ルベク廣ク、車輛又ハ獸群ニ對スル場合

ニ在リテハ、車道ノ半以上、歩行者、自轉車又ハ單獨ノ動物ニ對スル場合ニ在リテハ二「メートル」以上ヲ開クベシ。

3 他ノ車輛ヲ追越サントスルトキハ、左方ニ寄ル前ニ、反對ノ方向ヨリ來ル車輛又ハ動物ト衝突スル虞ナクシテ追越シ得ルヤ否ヤヲ確ムベシ。

4 前方ノ見透充分ナラザルトキハ追越ヲ爲スコトヲ得ズ。

5 追越ノ後、運轉者ハ追越シタル車輛又ハ動物ニ支障ナキコトヲ確メタル後ニ非ザレバ其ノ車輛ヲ右方ニ復スベカラズ。

道路ノ分岐點及ビ交叉點

第十條 車輛又ハ動物ノ運轉者又ハ引卒者若クハ騎乗者ガ道路ノ分岐點又ハ交叉點ニ到リタルトキハ、其ノ接近ヲ豫告シ又ハ道路ノ自由ナルコトヲ確メテ徐行シ其ノ右方ニ沿フベシ。見透不充分ナル場所ニ於テハ殊ニ然リトス。
2 運轉者又ハ引卒者若クハ 2 市街地外ニ於テハ道路ノ騎乗者ハ、道路ノ分岐點 分岐點及ビ交叉點ニ於テ

及ビ交叉點ニ於テハ、其

ノ右方ニ存スル道路ヨリ

來ル運轉者又ハ引卒者若

クハ騎乗者ニ進路ヲ讓ル

コトヲ要ス（一九二七年

四月一二日令ヲ以テ改

正）。

3 然レドモ市街地外ニ於テ

ハ、道路ノ分岐點及ビ交

叉點ニ於ケル進路優先權

ハ國道ヲ通行スル車輛ニ

存スルモノトス（一九二

九年一〇月五日令ヲ以テ

改正）。

ル進路優先權ハ、國道ヲ

通行スル車輛又ハ通行ノ

點ニ於テ國道ニ準ゼラル

ル道路ヲ通行スル車輛ニ

存スルモノトス。

3 市街地外ノ同種ノ道路ノ

交叉點ニ於テハ、運轉者

又ハ引卒者若クハ騎乗者

ハ其ノ右方ニ來ル運轉者

又ハ引卒者若クハ騎乗者

ニ進路ヲ讓ルコトヲ要ス

市街地内ニ於テハ、主務

行政廳ガ特別ノ定ヲ爲シ

タル場合ヲ除クノ外同一

ノ法則ニ依ルモノトス。

車輛ノ駐車

第十一條 正當ノ事由ナク

シテ車輛ヲ公道ニ駐車ス

ルコトヲ得ズ(一九二八

年八月二一日令ヲ以テ改

正)。

必要ナクシテ車輛ヲ公道

ニ駐車スルコトヲ得ズ。

之ニ駐マルコトヲ得ズ、但シ第五十四條ニ定ムル場合ハ

此ノ限ニ在ラズ。

縦列

第十三條 行程ヲ共ニスル爲集團シタル車輛ハ縦列ヲ成ス

モノトス。

2 運轉者ハ一切ノ事故ヲ防止スル爲必要ナル注意ヲ爲シタ

ル後ニ非サレバ、其ノ車輛ヲ放置スルコトヲ得ズ。

3 總テ駐車中ノ車輛ハ通行上ノ障害ヲ成ルベク少クシ且ツ

土地ノ出入ヲ妨害セザル様ニ之ヲ置クベシ。

4 車輛ガ事故ニ因リテ動かザル場合又ハ積荷ノ全部若クハ

一部分公道ニ墜落シ直ニ之ヲ積戻スコトヲ得ザル場合ニ

於テハ、運轉者ハ通行ノ安全ヲ保障シ殊ニ日没後ハ障礙

物ノ點燈ヲ確保スル爲必要ナル處置ヲ執ルベシ。

歩道、其ノ他ノ通行

第十二條 特定ノ通行(歩行者、騎乗者、自轉者使用者等)

ノ爲特ニ道路ノ一部ニ歩道、乘馬道、自轉車道等ヲ設ケ

タル場合ニ於テハ、他ノ運轉方法ヲ以テ之ヲ通行シ又ハ

之ニ駐マルコトヲ得ズ、但シ第五十四條ニ定ムル場合ハ

此ノ限ニ在ラズ。

縦列

第十三條 行程ヲ共ニスル爲集團シタル車輛ハ縦列ヲ成ス

モノトス。

2 動物ノ牽引ニ依ル車輛ノ縦列ハ、第七條ノ規定ニ拘ラズ

間隔ヲ置カズシテ續行スル車輛三輛毎ニ運轉者一人ヲ置

クコトヲ得、但シ左ニ掲グル制限ニ從フコトヲ要ス。

イ 第一ノ車輛ノ駕獸ハ二頭以下タルコト、但シ縦ニ繫

駕スルコトヲ妨ゲズ。第二及ビ第三ノ車輛ニハ一頭宛

繫駕スルコト。

ロ 第二及ビ第三ノ車輛ニ繫駕シタル駕獸ハ前行ノ車輛

ノ後面ニ之ヲ繫ゲコト。

ハ 運轉者ガ徒行セザルトキハ第一ノ車輛ニ乘リ且ツ常

ニ手綱ヲ手放サザルコト。

3 縦列ガ車輛二輛ヨリ成ルトキハ各車輛ニ駕獸一頭以上ヲ

繫駕スルコトヲ得。此ノ場合ニ於テハ運轉者一人ヲ置キ

第一ノ車輛ノ駕駛ハ之ヲ縱ニ繫駕スルコトヲ妨グズ、但シ前項（ロ）及ビ（ハ）ノ制限ニ從ヒ且ツ駕駛ノ總數ハ六頭ヲ超エザルコトヲ要ス。

4 縦列ハ動物ノ牽引ニ依ル車輛ノ縦列ニ在リテハ全長（駕駛ヲ含ム）二十五「メートル」以下ノ班、自動車輛ノ縦列ニ在リテハ全長（被牽引車ヲ含ム）五十「メートル」以下ノ班ニ之ヲ區分スベシ。各班ハ第一ノ場合ニ在リテハ二十五「メートル」以上、第二ノ場合ニ在リテハ五十「メートル」以上ノ間隔ヲ置キテ續行スベシ。

特別運送

5 本條ノ規定ハ軍事縦列ニ關シテハ之ヲ適用セズ。

第十四條 容積及ビ重量大ナル不可分ノ物件ニシテ本則第十八條ニ定ムル頭數ヲ超ユル駕駛ヲ要シ又ハ第二條ニ定ムル荷重ノ制限ヲ超ユル若クハ第六條ニ定ムル積荷ノ幅ヲ超ユル又ハ道路ニ於テ他ノ車輛ノ通行ニ危害ヲ及ボス處アルモノヲ運搬スル必要アル場合ニ於テハ、其ノ運搬ノ條件ハ通過地ノ知事ニ於テ道路技師又ハ道路吏員ノ意見ヲ

徵シテ之ヲ定ム。

2 前項ノ規定ニ依リテ發スル命令ニハ、一般通行ノ便宜及ビ安全ヲ確保シ道路、工作物及ビ並木ニ對スル損害ヲ防止スル爲通ルベキ路線及ビ執ルベキ措置ヲ記載スベシ。

雪解柵

第十五條 國道、縣道、大交通市町村道、共通市町村道及ビ林道ニ在リテハ知事、其ノ他ノ道路ニ在リテハ市町村長ハ雪解柵ノ設置ヲ命ズルコトヲ得。

2 雪解柵ノ閉鎖中ハ左ニ掲グルモノニ限り通行スルコトヲ得。

一 郵便車

二 人ノ運送ノ用ニ供スル車輛ニシテ一般運送事業ノ用ニ供セザルモノ

三 動物ノ牽引ニ依ル車輛ニシテ積荷ヲ有セザルモノ及ビ手車

四 前各號ノ種類ニ屬セザル車輛ニシテ動物ノ牽引ニ依ル車輛ニ在リテハ駕駛ノ頭數、各種車輛ニ在リテハ路

面ニ及ボス輪帶幅一「センチメートル」當リノ壓力ガ知事ニ於テ氣候、車道ノ築造方法及ビ狀態、路面ノ性質其ノ他地方ノ情況ニ因リテ定メタル制限ヲ超エザル

モノ

3 本條ノ規定ニ違犯シタルトキハ、車輛ヲ差押ヘ繋留場ニ之ヲ留置ス、但シ罰金ヲ科シ公道ニ生ジタル損害ノ復舊費ヲ徴收スルコトヲ妨グズ。

橋梁ノ通過

第十六條 通行ノ安全ニ必要ナル條件ヲ完備セザル橋梁ニ付テハ、道路ノ性質ニ依リ知事又ハ市町村長ハ此ノ安全ヲ確保スル爲必要ト認ムル一切ノ措置ヲ執ルコトヲ得。
2 此ノ種ノ橋梁ノ保護及ビ通過ニ付認メタル最大荷重及ビ命ジタル方法ハ、如何ナル場合ニ於テモ、運轉者ニ充分見易キ様其ノ人口及ビ出口ニ之ヲ榜示スベシ。

3 急迫ノ事情存スルトキハ、市町村長ハ保安上必要ト認ムル假處分ヲ爲スコトヲ得、但シ此ノ場合ニ於テハ上級廳ニ其ノ旨報告スルコトヲ要ス。

第二章 動物ノ牽引ニ依ル車輛ニ關スル特

別規定

制動機

第十七條 地形上必要アルトキハ、知事ハ特定ノ道路ニ付總テノ車輛ニ制動機又ハ齒止裝置ヲ備ヘシムルコトヲ得。

駕獸ノ頭數

第十八條 第十四條ニ定ムル場合ヲ除クノ外、左ニ掲グル制限ヲ超エテ駕獸ヲ繋駕スルコトヲ得ズ。

一 貨物ノ運送ノ用ニ供スル車輛ニ在リテハ、二輪車ノ場合ハ馬其ノ他ノ挽獸五頭、四輪車ノ場合ハ牛六頭又ハ馬其ノ他ノ挽獸八頭、但シ五頭以上ヲ縦ニ繋駕スルコトヲ得ズ。

二 人ノ運送ノ用ニ供スル車輛ニ在リテハ、二輪車ノ場合ハ馬三頭、四輪車ノ場合ハ馬六頭。

2 挽獸ノ頭數六頭ヲ超ユル場合ニ於テハ運轉者ニ助手一人

ヲ附スベシ。

副 獸

第十九條 前條ニ定ムル駕獸ノ頭數ノ制限ハ、特ニ著シキ
勾配又ハ距離ヲ有スル坂路ノ存スル道路ノ區間ニ關シテ
ハ之ヲ適用セズ。

2 此ノ道路ノ區間ハ縣令ヲ以テ之ヲ定メ、其ノ經界ハ「副
獸」ノ表示ヲ掲グル標柱ニ依リ現場ニ於テ之ヲ指示ス。

3 副獸ノ使用ハ、修繕工事其ノ他ノ事情ニ因リ此ノ方法ヲ
必要トスル道路ノ區間ニ付テモ、知事ニ於テ臨時之ヲ認
ムルコトヲ得。此ノ場合ニ於テハ區間ノ經界ヲ指示スル
爲假標柱ヲ設クルモノトス

降雪及ビ氷雨

第二十條 降雪及ビ氷雨ノ際ハ、挽獸ノ頭數ノ制限ニ關ス
ル規定ハ其ノ適用ヲ停止ス。

第三章 自動車輛ニ關スル特別規定

發 動 機 關

第二十一條 自動車輛ノ諸機關ハ火災又ハ爆發ノ危險ヲ防
止スル構造ト爲スベシ。其ノ運轉ニ依リ危險又ハ不快ヲ
生ズルガ如キコトアルベカラズ。

2 發動機ハ無音排汽裝置ヲ
備フベシ。自由排汽ヲ爲
スコトヲ得ズ(一九二五
年九月一二日令ヲ以テ改
正)。

3 動力ヲ生ズル裝置ハ同一種類ノ裝置ニ關スル現行又ハ將
來ノ法令ノ定ムル所ニ依ル。
操縱操向機關
2 運轉者ハ其ノ座席ヨリ操縱機關ヲ操作シ、道路ノ看視ヲ
止メズシテ表示器ヲ參看シ得ルコトヲ要ス。

2 運轉者ハ其ノ座席ヨリ操縱機關ヲ操作シ、道路ノ看視ヲ
止メズシテ表示器ヲ參看シ得ルコトヲ要ス。

3 方向轉換機關ハ相當堅牢ノモノタルコトヲ要ス。

4 車輛重量三百五十「キログラム」ヲ超ユル自動車輛ハ逆行裝置ヲ備フベシ。

5 貨物ノ運送ノ用ニ供スル自動車輛ニシテ總重量三千「キ

ログラム」ヲ超ユルモノハ、運轉者ガ之ヲ追越スコトアルベキ他ノ總テノ車輛ヲ自席ヨリ認メ得ベキ構造ヲ有スル後寫器ヲ備フベシ。

6 本則公布ノ際現ニ使用スル車輛ニ對スル前項ノ規定ノ適用期日ニ關シテハ第六十條ヲ以テ之ヲ定ム。

制動機關

第二十三條 總テ自動車輛

ハ獨立ニ迅速ニ作用シ急

勾配ニ於テ車輛ヲ停止シ

停止狀態ヲ保持スルニ足

ル力ヲ有スルニ系統ノ制

動機ヲ備フベシ（一九二

九年一〇月五日令ヲ以テ

改正）。

2 少クトモ一系統ノ制動機ハ車輪又ハ之ト直ニ聯絡スル環ニ直接作用スルコトヲ要ス。

3 前輪部發動機附車輛ノ場合ニ於テハ、運轉者ノ操作スル制動機ノ中一系統ハ車輛ノ後輪ニ作用スルコトヲ要ス。

4 制動機ノ獨立性及ビ效率ニ關スル條件ニ關シテハ

土木大臣ノ命令ヲ以テ之ヲ定ム（一九二九年一〇

月五日令ヲ以テ追加）。

5 單一ノ被牽引車ニ付テハ

總重量一「トン」ヲ超エ

ザル場合ニ限り制動機ヲ

備ヘザルコトヲ得（一九

二九年一〇月五日令ヲ以

テ改正）。

6 路面列車ノ場合ニ於テハ

4 單一ノ被牽引車ニ付テハ

制動機ヲ備ヘザルコトヲ

得。路面列車ノ場合ニ於

テハ各車輛ニ本條第一項

ノ條件ヲ具備シ且ツ自動

車ノ座席ニ在ル運轉者又

ハ特別ノ運轉者ガ操作ス

各車輛ニ本條第一項ノ條件ヲ具備シ且ツ自動車ノ

ルコトヲ得ル制動機一個ヲ備フベシ。

座席ニ在ル運轉者又ハ特別ノ運轉者ガ操作スルコ

3 總テ自動車輛ハ、道路ノ前方百「メートル」以上ノ距離ヲ有効ニ照射スルコトヲ得ル裝置ヲモ備フベシ（同上）。

トヲ得ル制動機一個ヲ備フベシ（同上）。

4 眩輝ヲ生ズル處アル照射裝置ハ、市街地内其ノ他必要ト認ムル場合ニ於テハ他ノ道路使用者ト行逢ヒタル際ニ眩輝ヲ除去シ得ベキ構造ト爲スベシ、但シ眩輝ヲ除去スル裝置ハ少クトモ二十五「メートル」ノ距離迄車道ヲ有効ニ照射スルニ足ル光力ニ代フルコトヲ要ス（同上）。

點 燈

第二十四條 總テ自動車輛ハ、自動自轉車ヲ除クノ外、日没後ハ前面ニ白燈二個、後面左側ニ赤燈一個ヲ備フベシ。

2 自動自轉車ニ付テハ點燈ヲ減ジ前面ニ白燈一個後

2 自動自轉車ニ付テハ點燈ヲ減ジ前方及ビ後方ヨリ認メ得ベキ燈火一個、又ハ赤色ノ反射面ヲ有スル器具ヲ後面ニ取附ケタル場合ニ於テハ單ニ前面ヨリ認メ得ベキ燈火一個ト爲スコトヲ得。

面ニ赤燈一個ト爲スコト

ヲ得（一九二九年一〇月

五日令ヲ以テ改正）。

爲スコトヲ得。

3 尙毎時二十「キロメートル」ヲ超ユル速度ヲ以テ進行スル車輛ハ、道路ノ前方百「メートル」ヲ照射スル光力ヲ有シ且ツ他ノ道路使用者ニ對シ眩輝ヲ生ゼザル様其ノ束光線ヲ整調シタル補助裝置ヲ一個以上備フベシ。此ノ裝置ハ市街地内ノ公設燈火ノ存スル道路ニ於テハ之ヲ使用スルコトヲ得ズ。

5 市街地内ノ公設燈火ノ存

スル道路ニ於テハ、自動

車輛ハ本條第一項及ビ第

二項ニ定ムル燈火ノミヲ

有スルコトヲ得(同上)。

6 本條第三項及ビ第四項ノ

規定ニ適合スル爲自動車

ノ照射裝置ガ具備スベキ

條件ニ關シテハ土木大臣

ノ命令ヲ以テ之ヲ定ム。

土木大臣ハ之等ノ規定ニ

適合スルモノト認ムル裝

置ノ型式ヲ認可シ、之等

ノ規定ニ依ラザル裝置ノ

使用ヲ禁止ス(同上)。

5 日没後ハ單獨ノ自動車ハ本則第二十七條ニ依リテ貼附ヲ

命ゼラレタル後面ノ表示板ニ記入シタル番號ヲ認メ得ル

様ニ爲スコトヲ得ベキ發光裝置ヲ備フベシ。自動車一輛

ヲ以テ數輛ノ車輛ヲ牽引スル場合ニ於テハ、此ノ照射裝

置並ニ後面ノ赤燈ハ最後ノ被牽引車ノ後面ニ之ヲ移シ尙

第三十二條ニ依リ牽引車ノ番號ヲ之ニ掲グベシ。

8 第十一第二項及ビ第三

項ニ定ムル條件ニ依リ公

道ニ駐車スル自動車ハ、

本條ノ規定ニ拘ラズ前方

ニ白光、後方ニ赤光ヲ放

ツ燈火一個ニ依リテ合圖

シ、車輛ヲ通行ノ行ハル

ル側ヨリ庇護スル様ニ取

附クルコトヲ得。此ノ燈

火ノ取附場所、特徴及ビ

光力ハ一方又ハ他方ヨリ

接近スル各種車輛ノ運轉

者ニ對シ自動車ノ駐車ヲ

6 本則公布ノ際現ニ使用ス

ル車輛ニ對スル本條ノ適

用期日ニ關シテハ第六十

條ヲ以テ之ヲ定ム。

有効ニ合圖シ得ル程度ノ

モノナルコトヲ要ス。(一)

九二七年四月一二日令ヲ

以テ改正)。

9 前項ノ規定ハ被牽引車ヲ

牽引スル自動車ニ關シテ

ハ之ヲ適用セズ(同上)。

音響信號

第二十五條 郊外地ニ於テハ總テノ自動車輛ハ、必要アル

トキハ百「メートル」以上ノ距離ニ達スル警音器(特別

法規ニ依リ他ノ用途ニ充ツル信號器ニ非ザルモノ)ニ依

リテ其ノ接近ヲ合圖スベシ。

2 然レドモ市街地内ニ於テハ、警音器ヨリ發スル音響ハ、

居住者若クハ通行者ヲ不快ナラシメ又ハ動物ヲ驚奔セシ

ムルコトナキ軟調ノモノナルコトヲ要ス。複音喇叭、「サ

イレン」及ビ呼子ハ市街地ニ於テ之ヲ使用スルコトヲ得

ズ。

車輛検査

第二十六條 自動車輛ガ第二十一條乃至第二十三條ノ規定

ニ適合スル旨ノ檢證ハ、製造者ノ申請ニ因リ車輛ノ型式

毎ニ、又ハ所有者ノ申請ニ因リ單獨ノ車輛毎ニ、鑛山局

ニ於テ之ヲ行フ。

2 「フランス」ニ於テ製造スル車輛ニ付テハ、製造者ガ自動

車輛ノ型式ヲ定メタルトキ又ハ之ヲ定メントスルトキハ

其ノ檢定ヲ申請スベシ。外國製ノ車輛ニ付テハ、型式ノ

檢定ハ外國ノ製造者ガ特ニ土木大臣ニ届出デタル代表者

ヲ「フランス」ニ有スル場合ニ限り之ヲ認ムルモノトス。

此ノ場合ニ於テハ代表者ノ申請ニ因リ之ヲ行フ。

3 鑛山局官吏ニ於テ呈示ニ係ル車輛ガ成規ノ規定ニ適合ス

ル旨ヲ檢證シタルトキハ、自ら調書ヲ作成シ其ノ正本ヲ

申請者ニ交付ス。

4 製造者ハ規則ニ適合スルモノト認メラレタル型式ニ符合

スル車輛ヲ公衆ニ販賣スルコトヲ得。製造者ハ型式毎ニ

各車輛ニ番號ヲ附シ、調書ノ謄本並ニ販賣スル車輛ガ型

式ニ完全ニ符合スルコトヲ證スル證明書ヲ購買者ニ交付ス。證明書ニハ車輛ガ水平面ニ於テ達シ得ル最高速度ヲ明記スルモノトス。外國製ノ車輛ニ付テハ、本條第二項ノ代表者ハ製造者ニ代リテ證明書ニ署名スベシ。

5 鑛山技師ニ於テ呈示ニ係ル車輛ガ成規ノ規定ニ適合スル旨ヲ檢證スル調書ノ作成ヲ拒否シタルトキハ、關係者ハ土木大臣ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得。土木大臣ハ中央自動車委員會ノ意見ヲ徵シ之ヲ決定ス。

表、示、板

第二十七條 第四條ニ定ムル所有者ノ氏名及ビ住所ヲ記載シタル表示板トハ別ニ、總テ自動車輛ハ一個又ハ數個ノ金屬製表示板ニ製造者ノ氏名、型式ノ表示、及ビ貨物ノ運送ノ用ニ供スル車輛ニ在リテハ右ノ外、車輛重量及ビ最大積載量ヲ明瞭ニ記載スベシ。

2 總テ自動車輛ハ右ノ外、車輛番號ヲ記載シタル同型ノ表示板二個ヲ備へ、車輛ノ前面及ビ後面ノ見易キ箇所ニ動かザル様附着スベシ。

3 此ノ雜型及ビ標示方法並ニ關係者ニ對スル車輛番號ノ指示ニ關シテハ土木大臣之ヲ定ム。

通行ノ許可

第二十八條 總テ自動車輛ノ所有者ハ、之ヲ公道ノ通行ニ使用スル前ニ、氏名及ビ住所ヲ記載シタル屆書ニ第二十六條ニ依リ作成セラレタル調書ノ謄本ヲ添へ其ノ居住地ノ知事ニ之ヲ差出スベシ。

2 前項ノ屆出アリタルトキハ所有者ニ領收證ヲ交付ス。領收證ニハ車輛ニ指示シタル番號ヲ記載スルモノトス。

3 所有者ヨリ屆出アリタルトキハ遲滞ナク鑛山局ニ其ノ旨通知スルモノトス。

4 一ノ縣ニ於テ爲シタル屆出ハ「フランス」全國ニ對シテ効力ヲ有ス。

5 本條ノ規定ハ特別ノ口座ニ登錄シタル陸軍及ビ海軍ノ自動車輛ニ關シテハ之ヲ適用セズ。之等ノ車輛ニ付テハ成規ノ雜型ノ原簿ヲ以テ屆書ノ領收證ニ代フ。

運轉、免許

第二十九條 何人ト雖モ土木大臣ノ選任シタル鑑定人ノ意

見ニ因リ居住地ノ知事ガ交付スル免許證ヲ携帶スルニ非

ザレバ自動車輛ヲ運轉スルコトヲ得ズ。此ノ免許證ハ年

齡十八年以上ノ受験者ニ非ザレバ之ヲ交付スルコトヲ得

ズ。免許證ハ一般運送ノ用ニ供スル車輛又ハ總重量三千

「キログラム」ヲ超ユル車輛ノ運轉ニ付テハ、特ニ此ノ點

ニ關スル記載アル場合ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ズ。

2 二輪自動車ノ運轉者ハ知事ガ土木大臣ノ選任シタル

鑑定人ノ意見ニ因リ年齡十六年以上ノ受験者ニ交付スル

特殊免許證ヲ携帶スベシ。

3 機械的推進ニ依ル車輛ニ

シテ土地ノ耕作ヲ主タル

目的トスルモノノ運轉者

ニ付テハ前二項ノ規定ニ

依ラザルコトヲ得(一九

二七年四月一二日令ヲ以

テ改正)。

3 運轉免許證ノ作成及ビ交付ニ關スル條件ニ關シテハ土木

大臣ノ命令ヲ以テ之ヲ定ム。

5 運轉免許ノ名義人ガ刑法

第三百十九條及ビ第三百

二十條ニ定ムル行爲ヲ爲

シタル旨調書ニ記載セラ

レタルトキハ、調書作成

地ノ知事ハ裁判ノ確定ス

ル迄免許ノ停止ヲ言渡ス

コトヲ得(一九二七年四

月一二日令ヲ以テ改正)。

6 名義人ガ本令ノ規定ニ違

犯シタル爲刑ノ言渡ヲ受

ケタルトキハ、判決言渡

地ノ知事ハ免許ノ停止又

4 本令ノ規定ニ違犯シタル

トキハ運轉者又ハ其ノ代

理者ノ意見ヲ開キ縣令ヲ

以テ免許證ヲ取上グルコ

トヲ得、運轉者ガ酒氣ヲ

帶ビタル爲犯罪ガ加重セ

ラルル場合並ニ免許證交

付ノ後永久的無資格ガ正

當ニ檢證セラレタル場合

ニ於テハ必ラズ之ヲ取上

グルコトヲ要ス。

5 機械的推進ニ依ル車輛ニ

シテ土地ノ耕作ヲ主タル

目的トスルモノノ運轉者

ニ付テハ前數項ノ規定ニ

ハ取消ヲ言渡スコトヲ得

(同上)。

7 免狀ノ名義人ガ刑法第三百十九條及ビ第三百二十條ノ適用ニ依リ刑ノ言渡ヲ受ケタルトキハ、知事ハ免許ノ停止又ハ取消ヲ言渡スベシ(同上)。

8 判決ニ於テ運轉者ガ右ノ外千九百八年七月十七日法ニ定ムル逃走罪ヲ犯シ又ハ酒氣ヲ帯ビタルコトヲ確認セラレタルトキハ必ラズ取消ノ言渡ヲ爲スコトヲ要ス。免許ノ停止ヲ言渡シタル命令ニ違反シタル場合ニ付亦同ジ

依ラザルコトヲ得。

(同上)。

9 取消ノ場合ニ依テ之ヲ言渡ス命令ノ中ニ期間ヲ指定シ此ノ期間經過後ハ取消サレタル名義人ガ新規ノ免許ヲ出願スルコトヲ得ル旨ヲ定ムルコトヲ得但シ取消サレタル免許ノ名義人ハ知事ガ後ニ規定スル特別ノ委員會ノ意見ヲ徴シテ許可シタル後ニ非ザレバ新規ノ出願ヲ爲スコトヲ得ズ(同上)。

10 免許證交付ノ後、名義人ノ永久的無資格方正當ニ檢證セラレタルトキハ、檢證地ノ知事ハ免許ノ取

消ヲ言渡スモノトス（同上）。

11 總テ運轉免許ノ停止又ハ取消ニ關スル知事ノ命令ハ、特別ノ専門委員會ノ意見ヲ徵シテ之ヲ發ス。

此ノ委員會ニ免許ノ處分ヲ提案シタルトキハ、其ノ名義人ニ出頭ヲ命ズルコトヲ要ス。名義人ハ自ラ又ハ代理者ニ依リ意見ヲ提出スルコトヲ得。免許ノ停止又ハ取消ノ命令ハ、免許臺帳ノ作成及ビ手入ヲ擔任スル機關ニ移送スル爲知事ヨリ土木大臣ニ通知スベシ。免許ヲ

停止シ又ハ取消シタルト

キハ停止ノ場合ハ一時、

取消ノ場合ハ確定的ニ名

義人ヨリ免許證ヲ取上グ

ルモノトス（同上）。

（參照）

○刑法

第三百十九條 不熟練、不用意、不注意、懈怠又ハ法規

ノ違反ニ因リ過ツテ人ヲ殺シ又ハ死ニ致シタル者ハ、

三月以上二年以下ノ拘留及ビ五十「フラン」以上六百

「フラン」以下ノ罰金ニ處ス。

第三百二十條 熟練又ハ注意ヲ缺キタルニ因リ人ヲ傷害

シタル者ハ、六日以上二月以下ノ拘留及ビ十六「フラ

ン」以上百「フラン」以下ノ罰金ニ處シ又ハ單ニ之等

兩刑ノ一ニ處ス。

○千九百八年七月十七日法

各種車輛ノ運轉者ニシテ其ノ車輛ガ事故ヲ生ゼシメタル

コトヲ知り乍ラ停止セズ以テ其ノ刑事上又ハ民事上ノ責任ヲ免レシトシタル者ハ、六日以上二月以上ノ拘留及ビ十六「フラン」以上五百「フラン」以下ノ罰金ニ處ス、但シ之ト併合セラルベキ重罪又ハ輕罪ニ對スル刑ノ適用ヲ妨グルコトナシ。

尙刑法第三百十九條及ビ第三百二十條ノ適用ヲ要スル場合ニ於テハ、各本條ニ規定スル刑ヲ其ノ二倍以下ト爲スコトヲ得。

刑法第四百六十三條ノ規定（註第三編の通則、酌量減輕に關する規定）ハ本法ノ輕罪ニ之ヲ適用ス。

自動車ノ通行

第三十條 自動車ノ運轉者ハ主務行政廳ノ職員ヨリ要求アル都度、左ニ掲グル書類ヲ呈示スルコトヲ要ス。

一 資格證明書

二 車輛届書ノ領收證

2 運轉者ハ一切ノ事故ヲ防止スル爲有用ナル注意ヲ拂ヒ且ツ發動機ノ一切ノ騒音ヲ止ムルコトナクシテ車輛ヨリ立

去ルベカラズ。

3 途中ニ於テ變調ヲ生ジタルトキハ、喧噪ナル修繕及ビ調節ハ絕對的不能ノ場合ヲ除クノ外、人家ヨリ百「メートル」以上距離リタル所ニ於テ之ヲ行フベシ。

速度

第三十一條 總テ自動車ノ運轉者ハ人、動物、器物又ハ道路ニ及ボシタル損害ニ付責任ヲ有スルノ外、始終其ノ速度ヲ自由ニ加減シ得ル状態ニ在ルベシ。本令第六十二條ノ規定ニ依リ公道ノ使用ニ付特別ノ規定ヲ定ムル權限ヲ有スル知事及ビ市町村長ノ認メタル速度迄自動車ノ速度ヲ低減スルノミナラズ、市街地、屈曲部、急坂、人家ノ存スル區間、狹隘ニシテ雜沓セル通路、十字衝ニ於ケル場合、行違若クハ追越ノ場合又ハ公道ニ於テ挽獸、駄獸若クハ乘獸又ハ人ガ乘リ若クハ引卒ル家畜ガ自動車ノ接近ニ因リ驚奔ノ徵候ヲ呈シタル場合其ノ他情況又ハ場所ノ構造ニ因リ事故ノ原因ト成リ、通行ヲ混亂若クハ妨害スル處アル都度進行ヲ緩メ又ハ停止スルコトヲ要ス。

2 自動車ノ速度ハ、日没後又ハ霧ノ場合ニ於テモ之ヲ低減スベシ。

3 尙總重量三千「キログラム」ヲ超ユル車輛ハ、運送ノ目的ガ人ナルヤ貨物ナルヤ並ニ輪帶ノ性質及ビ車輛ノ總重量ノ如何ニ依リ、土木大臣及ビ内務大臣ニ於テ中央自動車委員會、道路會議及ビ市町村道路間委員會ノ意見ヲ徴シテ發スル特別ノ命令ノ定ムル最高速度ヲ超エザル様之ヲ制限スルモノトス。

自動車、牽引車、及ビ被牽引車

第三十二條 甲 被牽引車一輛ノ場合及ビ數輛ノ場合ニ關スル共通規定

第二條、第三條、第五條及ビ第二十七條第一項ノ單獨車輛ニ關スル本則ノ規定ハ、被牽引車ニ之ヲ準用ス。縦列ニ關スル第十二條ノ規定ハ、牽引車及ビ被牽引車ヨリ成ル一體ニ之ヲ準用ス。

2 最後ノ被牽引車ハ、第二十七條第二項ニ定ムル牽引車ノ後面ノ表示板ヲ複製シタル同型ノ表示板ヲ必ラズ其ノ後

面ニ掲ゲベシ、但シ被牽引車ノ表示板ハ可動ノモノト爲スコトヲ妨ゲズ。

3 制動機及ビ點燈ニ付テハ、第二十三條及ビ第二十四條ノ被牽引車ニ關スル特別規定ノ定ムル所ニ依ル。

4 綱其ノ他ノ裝置ニ依ル應急的連結法ハ絕對的必要ノ場合ニ限り之ヲ用フルコトヲ得、但シ此ノ場合ニ於テハ此ノ連結法ヲ晝夜共明瞭ナラシムル様處置スベシ。同一ノ牽引車ヲ以テ數輛ノ車輛ヲ牽引スル場合ニ於テハ、連結ノ一ニ付テノミ應急的方法ヲ使用スルコトヲ得。

乙 被牽引車一輛ノ場合ニ關スル特別規定

總重量三千「キログラム」ヲ超ユル自動車輛ノ速度ノ制限ニ關スル第三十一條ノ規定ハ、牽引車及ビ其ノ一輛ノ被牽引車ヨリ成ル一體ヲ單一車輛ト看做シテ之ヲ適用ス。此ノ場合ニ於テハ、牽引車及ビ被牽引車ノ總重量ノ和ヲ以テ車輛ノ總重量トス。

2 牽引車及ビ被牽引車ガ同一ノ性質ノ輪帶ヲ備ヘザルトキハ、其ノ速度ハ使用スル輪帶ノ種類ノ何レカニ付テ認メ

ラレタル最モ低キ最高速度ヲ超ユルコトヲ得ズ。

3 被牽引車ノ總重量ガ牽引車ノ車輛重量ノ半ヲ超エザルトキハ、速度ノ制限ニ付テハ被牽引車ヲ斟酌セズ牽引車ノミノ總重量ニ依リテ之ヲ定ム。

4 然レドモ總重量三千「キログラム」未滿ノ車輛ト雖、被牽引車ヲ牽引スルモノハ、如何ナル場合ニ於テモ、毎時四十「キロメートル」ヲ超ユル速度ヲ以テ進行スベカラズ。

丙 被牽引車數輛ノ場合ニ關スル特別規定

被牽引車數輛ヨリ成ル列車ガ縣内ヲ通行セントスル場合ニ於テハ、其ノ縣ノ知事ニ於テ其ノ通過スル道路ノ性質ニ依リ主任道路技師若クハ主任道路吏員又ハ之等ノ兩主任者ノ意見ヲ徵シテ交付スル許可書ヲ受クベシ。

2 申請書ニハ左ニ掲グル事項ヲ表示スベシ。

一 申請者ガ通行セントスル道路

二 牽引車及ビ各被牽引車ノ總重量並ニ最大軸重

三 列車ノ常時ノ編成及ビ其ノ全長

四 豫定進行速度

五 第二十三條ノ規定ニ依リテ採用シタル制動方法

3 許可書ニ於テハ通行ノ安全及ビ便宜ヲ確保スル爲自動車及ビ其ノ運轉者ガ具備スベキ條件ヲ定ム。殊ニ進行ノ最高速度、列車ニ附屬セシムベキ人數ヲ決定ス。此ノ人數ハ如何ナル場合ニ於テモ二人ヲ降ルコトヲ得ズ。又牽引車ノ運轉者ガ被牽引車ノ制動機ヲ操作シ得ベカラザル構造ナルトキハ、被牽引車ノ制動機ハ、通過地ノ勾配及ビ進行速度ヨリ見テ列車ノ運行ノ安全ヲ確保スル爲必要ナリト認メラルル人數ノ特別運轉者ヲシテ之ヲ操作セシムベシ。關係者ハ知事ノ決定ニ對シ土木大臣ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得。土木大臣ハ中央自動車委員會ノ意見ヲ徵シ之ヲ決定ス。

本條ノ規定ハ陸軍省及ビ海軍省ノ特殊器具ニ關シテハ其ノ用途ト兩立セザル範圍内ニ於テ之ヲ適用セズ。

自動車競争

第三十三條 自動車競争ノ通路ガ一縣ノ區域内ニ限レル場

合ニ於テハ、許可ハ道路職員ノ主任者及ビ通過地ノ市町村長ノ意見ヲ徵シ知事之ヲ附與ス。

2 通路ガ敷府縣ニ互ル場合ニ於テハ、許可ハ道路職員ノ主任者及ビ市町村長ニ諮問シタル後、通過地ノ知事ノ意見ニ因リ土木大臣之ヲ附與ス。

3 監督費其ノ他競争ノ爲行政廳ニ要スル費用ハ、競争ノ發起者之ヲ負擔ス。發起者ハ此ノ爲豫メ供託ヲ爲スベシ。

第四章 一般運送事業ノ用ニ供スル繫駕車輛又ハ自動車

輛又ハ自動車

届出

第三十四條 繫駕車輛又ハ自動車ニ依ル一般運送事業ノ事

業者ハ、其ノ主タル營業所、車輛數、座席數、目的地、

發着日時ヲ知事ニ届出ヅベシ。

2 右ニ變更アリタルトキハ、其ノ都度改メテ届出ヅベシ。

制動機

第三十五條 前條ノ一般運送事業ノ用ニ供スル車輛ハ、運

轉者ガ其ノ座席ヨリ容易ニ操作スルコトヲ得ベキ制動機一個以上ヲ備フベシ。尙後輪ノ一個以上ヲ停止狀態ニ保持スルコトヲ得ベキ他ノ裝置一個以上ヲ備フベシ。

2 事故ノ少キ路線ヲ常時通行スル車輛ニ付テハ、知事ハ前項後段ノ裝置ヲ備ヘシメザルコトヲ得。

3 一般運送事業ノ用ニ供スル自動車輛ハ第二十三條ノ規定ニ依ル制限ヲ受ク。

車輛ノ内部及ビ外部ノ構造

第三十六條 一般運送事業ノ用ニ供スル車輛ノ内部ハ、旅客ノ安全及ビ安易ヲ確保スル構造ト爲スベシ。路線ニ關スル表示ハ、車輛ノ内部ニ最モ見易キ様ニ之ヲ掲グベシ。

點燈

第三十七條 夜間ハ一般運

送事業ノ用ニ供スル車輛

ハ動物ノ牽引ニ依ル車輛

ニ在リテハ第四條ニ定ム

ル條件ニ依リ又自動車輛

第三十七條 夜間ハ一般運

送事業ノ用ニ供スル車輛

ハ前方ハ白燈二個、後方

ハ赤燈一個ヲ以テ合圖ス

ベシ。

ニ在リテハ第二十四條ニ
定ムル條件ニ依リテ燈火
ヲ掲グベシ(一九二九年
一〇月五日令ヲ以テ改
正)。

2 赤燈ハ車輛ノ左側ニ之ヲ

取附クベシ。車輛(積荷
ヲ含ム)ノ全長六メー
ル未滿ノ場合ニ於テハ、
前面左方ノ燈火ト同一ノ
光源ニ依リテ之ヲ點スル
コト得。

3 自働車輛ノ點燈ハ第二十

四條ニ定ムル條件ニ依リ
テ之ヲ確保スベシ。然レ
ドモ道路ノ前方百メー
トル、以上ヲ照射スル燈
火ノ使用ヲ必要トスル最
高速度ハ、毎時二十キ
ロメートルヨリ十二キ
ロメートルニ之ヲ低減
ス。

車輛検査

第三十八條 第三十四條ニ依ル届出アリタルトキハ、知事

ハ事故ヲ生ゼシムル虞アル製造上ノ缺陷ナキヤ否ヤ並ニ
旅客運送ノ安易及ビ安全ヲ確保スル爲必要ナル條件ヲ具
備スルヤ否ヤヲ檢證スル爲直ニ車輛ノ検査ヲ命ズ。

2 此ノ検査ハ警察官ノ立會又ハ警察官在ラザルトキハ市町
村長若クハ其ノ代理者ノ立會ノ下ニ之ヲ行フ。検査ハ知
事ニ於テ必要ト認ムルトキハ、何時ニテモ之ヲ更新スル
コトヲ得。

3 事業者ハ行政廳ノ鑑定人ト立會ハシムル爲自己ノ側ヨリ
鑑定人一人ヲ選任スルコトヲ得。鑑定人ノ意見一致セザ
ルトキハ、之等ノ意見ヲ審査シテ知事之ヲ決定ス。

4 車輛ノ検査ハ主タル營業所ノ一ニ於テ之ヲ行フ。費用ハ
事業者ノ負擔トス。

通行及ビ停留ノ許可

第三十九條 一般運送事業ノ用ニ供スル車輛ハ、第三十八
條ニ依ル車輛検査ノ後知事ノ交附スル許可書ヲ有セズシ

テ之ヲ運行スルコトヲ得ズ。自動車輛ノ運行ニ付テハ、右ノ車輛検査ノ外ニ本則第三章ニ規定スル手續ヲ爲スコトヲ要ス。

2 知事ハ交付シタル許可書ノ摘要ヲ間接稅務局長ニ移送ス。千八百十七年三月二十五日法第百十七條ニ定ムル鑑札ハ許可書ヲ審査シタル後ニ非ザレバ之ヲ交付セズ。許可ハ特別ノ登録簿ニ之ヲ登記スベシ。

3 知事ハ車輛ガ所定ノ條件ヲ具備セザルニ至リタルコトヲ確認シタルトキハ、車輛検査ト同一ノ方法ニ依リ運行許可ノ撤回ヲ言渡スコトヲ得。

4 停留地點ハ知事ノ命令ヲ以テ之ヲ定ム。

(参照)

○千八百十七年三月二十五日法

第百十七條 届出ヲ爲シタル乗合船車(註、定期又は臨時に一般の使用に供する陸上及び水上の運送具)ハ收稅官吏ガ審査ノ上鑑札ヲ貼附シタル後ニ非ザレバ之ヲ運行スルコトヲ得ズ。鑑札料ハ一枚ニ付二「フラン」トシ

事業者之ヲ納付スベシ。又船車毎ニ届出ノ内容ニ依リ運行免狀ヲ交附スベシ。運轉者ハ此ノ免許ヲ携帶スルコトヲ要ス。

2 届出デタル乗合船車ニ變更ヲ加ヘ又ハ鑑札ヲ新規ノ船車ニ附換フルトキハ、豫メ届出ヲ爲スコトヲ要ス。此ノ場合ニ於テハ新規ノ免許ヲ受クルコトヲ要セズ。各種ノ表示及び賃金

第四十條 一般運送事業ノ用ニ供スル車輛ハ、外部ノ見易キ箇所ニ、間接稅務局長ノ交付シタル鑑札ノ外ニ事業者ノ氏名及び住所ヲ掲グベシ。

2 座席ノ數及び價格ハ、客室ノ内部ニ之ヲ揭示スベシ。
3 賃金ハ事業者ガ改正賃金ヲ少クトモ八日間其ノ各種ノ事務所及び車輛ノ内部ニ揭示シタル後ニ非ザレバ之ヲ變更スルコトヲ得ズ。

運轉者ノ義務

第四十一條 何人ト雖其ノ住所地ノ市町村長ノ交付スル生活業行證明書、及び自動車輛ニ付テハ右ノ外第二十條ニ

定ムル書明證ヲ携帯スルニ非ザレバ、一般運送事業ノ用ニ供スル車輛ヲ運轉スルコトヲ得ズ。

2 繫駕車輛ノ馭者ハ年齢十六年以上、自動車ノ運轉手ハ年齢二十年以上タルベシ。

3 駐車中ハ車掌及ビ馭者又ハ運轉手ハ、駕獸ヲ繫駕シ又ハ發動機ヲ運轉シタル儘同時ニ車輛ヨリ立去ルコトヲ得ズ
4 發車ノ合圖ヲ爲ス前ニ、車掌又ハ車掌ナキトキハ馭者若クハ運轉手ハ旅客ノ安全ヲ確保スル爲ノ裝置ガ整備セルヤ否ヤヲ確ムベシ。

進路權

第四十二條 各種車輛、挽獸、駄獸若クハ乗獸又ハ動物ノ挽夫、運轉者、引卒者若クハ騎乗者ガ本則第九條ノ規定ニ違背シ一般運送事業ノ用ニ供スル車輛ノ爲車道ノ半ヲ讓ラザル場合ニ於テ運轉者ガ此ノ犯罪ヲ告訴セントスルトキハ、最寄ノ地ノ警察官吏ニ對シ證據トナルベキ參考資料及ビ立證資料ヲ添ヘテ其ノ旨届出ツルモノトス。

2 警察官吏ハ告訴ノ調書ヲ作成シ、即時檢事ニ之ヲ移送ス。

驛ノ設置

第四十三條 事業者ハ關係地ノ知事ニ驛ヲ設置シタル場所及ビ驛長ノ氏名ヲ届出ヅルコトヲ要ス。

2 右ノ届出ハ事業者ガ驛長ヲ變更シタル都度、之ヲ更新スルモノトス。

驛ノ組織

第四十四條 驛長又ハ驛員ハ車輛ノ發着毎ニ立會ヒ、自ラ且ツ其ノ責任ニ於テ運轉者ガ酒氣ヲ帶ビザルコトヲ確ムルコトヲ要ス。

申告簿

2 驛ノ管理ハ驛ヲ設置シタル地ノ市町村長之ヲ監督ス。
第四十五條 各發着事務所及ビ各驛ニ旅客ガ運轉手、馭者又ハ車掌ニ對スル不平ヲ記入スル爲、市町村長ニ於テ番號及ビ花押ヲ附シタル申告簿ヲ備付クベシ。此ノ申告簿ハ請求アル都度、事務所長又ハ驛長ヨリ旅客ニ呈示スルモノトス

國際車輛ニ關スル特別規定

第四十六條 國際的一般運送事業ヲ行フ車輛ハ「フランス」

領土ノ通過ニ付テハ本則ノ定ムル所ニ依ル、但シ關係政

府間ノ協定ニ因リ本則ノ規定ニ依ラザルコトアルベシ。

前數條ノ規定ノ公示

第四十七條 第三十四條乃至第四十五條ハ事務所及ビ驛ノ

最モ見易キ箇所ニ事業者常時之ヲ揭示スベシ。

2 第四十條及ビ第四十五條ハ特ニ之ヲ印刷シ、車輛ノ客室

ノ内部ニ揭示スベシ。

第五章 自轉車ニ關スル規定

甲 發動機附自轉車

第四十八條 發動機附自轉車ハ第三章ノ定ムル所ニ依ル。

2 然レドモ左ニ掲グル製造

條件ヲ有スル補助發動機

附自轉車ハ、自動車輛ニ

關スル第三章第二十一條

乃至第二十三條、第二十

五條、第二十六、條第三十

一條及ビ第三十三條並ニ

普通自轉車ニ關スル第五

章乙第四十九條、第五十

一條及ビ第五十二條(第

二項)ノ定ムル所ニ依ル

(一九二五年九月一二日

令ヲ以テ追加)。

一 重量(發動機ヲ含ム)

三十「キログラム」以

下ナルコト

二 水平面ニ於テ最高速

度毎時二十「キロメー

トル」未滿ナルコト。

三 踏子ニ依リ足ヲ以テ

運轉シ得ルモノナルコ

ト。

3 第二十六條ニ定ムル鑛山

局ノ檢證及ビ證明ハ之等

ノ製造條件ノ檢定ニ及ブ

モノトス(同上)。

4 第五十一條ニ定ムル所有

者ノ氏名及ビ住所ヲ記載

スル表示板トハ別ニ、補

助發動機附自轉車ニ付テ

ハ發動機ニ定著シタル金

屬製表示板ニ發動機製造

者ノ氏名、車輛型式ノ表

示、製造番號及ビB・M・

Aナル記號(註、補助發

動機附自轉車 bicyclettes

à moteur auxiliaire の頭

字)ヲ明瞭ニ掲ゲ、製造

者之ニ極印ヲ押捺シテ證

研 究

明スベシ(同上)。

乙 普通自轉車

點 燈

第四十九條 日没後ハ總テ

自轉車ハ前面ニ白燈一個

後面ニ赤燈一個ヲ備フベ

シ。然レドモ土木大臣ノ

命令ヲ以テ定ムル期日迄

ハ、後面ハ赤燈ノ代リニ

赤色又ハ橙色ノ反射面ヲ

有スル器具ヲ適當ニ方向

ヲ指示シ其ノ他有效ナル

様ニ取附ケ之ヲ手入スル

コトヲ妨ゲズ(一九二九

年一〇月五日令ヲ以テ改

正)。

音響信號

第五十九條 日没後ハ總テ

自轉車ハ前方及ビ後方ヨ

リ認メ得ベキ燈火一個又

ハ單ニ前方ヨリ認メ得ベ

キ燈火一個及ビ後面ニ赤

色ノ反射面ヲ有スル器具

一個ヲ備フベシ。

第五十條 總テ自轉車ハ、必要ノ都度操作スベキ銳調ノ呼

鈴又ハ鈴ヨリ成ル警音器ニシテ其ノ音響五十「メートル」

以上ノ距離ニ達スルモノヲ備フベシ。其ノ他ノ一切ノ音

響信號ハ之ヲ使用スルコトヲ得ズ。

表 示 板

第五十一條 總テ自轉車ハ、所有者ノ氏名及ビ住所並ニ所

有者ガ自轉車ノ賃貸業者ナルトキハ番號ヲ記載シタル表

示板ヲ掲グベシ。

速 度

第五十二條 自轉車ハ市街地内並ニ公道ノ交叉點、十字街

及ビ曲角ニ於テハ徐行スベシ。

2 街路ニ於テハ通行ヲ妨害スル虞アル集團ヲ成スルコトヲ

得ズ。

行、違、又、ハ、追、越

第五十三條 自轉車ハ各種車輛、自轉車又ハ動物ト行違フ

場合ニハ其ノ右方ニ寄り、之等ヲ追越ス場合ニハ左方ニ

寄ルベシ。後ノ場合ニ於テハ其ノ警音器ニ依リ運轉者、

引卒者又ハ騎乗者ニ合圖シテ徐行スベシ。

自、轉、車、通、行、規、定

第五十四條 第十二條ノ規定ニ拘ラズ、機械ヲ手ニテ運轉

スル自轉車ニ限リ歩道ヲ通行スルコトヲ得。

2 尙鋪裝又ハ改造シタル道路ノ沿道ニ於テハ、自轉車ハ市

街地外ニ於テハ歩行者ノ用ニ供スル歩道及ビ側道ヲ通行

スルコトヲ得、但シ此ノ場合ニ於テハ自轉車ハ歩行者ニ

行逢ヒタルトキハ徐行シ、住宅ノ正面ニ於テハ其ノ速度

ヲ低減スルコトヲ要ス。

第六章 歩行者並ニ駕駛及ビ乘獸以外ノ動

物ニ關スル規定

步、行、者

第五十五條 各種車輛ノ運轉者ハ其ノ義務ニ屬スル注意上

ノ處置ヲ執ルノ外、歩行者ニ接近シタルトキハ之ニ合圖

スルコトヲ要ス。

2 正當ニ合圖ヲ受ケタル歩行者ハ車輛、自轉車、挽獸、駄

獸又ハ乗獸ヲ通過セシムル爲避讓スベシ。

獸群

第五十六條 公道ヲ通行スル各種動物ノ集團及ビ獸群ハ、

一般通行ヲ阻害セズ且ツ行違及ビ追越ニ支障ナキ様之ヲ

引卒スベシ。獸群ハ車道ニ駐マルベカラズ。

2 知事ハ毎年一般通行ニ對スル妨害ヲ成ルベク少カラシム

ル爲此ノ獸群ヲ通過スベキ路線其ノ他放牧獸群ノ遵守ス

ベキ特別ノ條件ヲ定ム。

公道ニ於ケル動物ノ彷徨又ハ放置

第五十七條 種類ノ何カルヲ問ハズ動物ヲ公道ニ彷徨セシ

メ挽獸、駄獸又ハ乗獸ヲ之ニ放置スルコトヲ得ズ、但シ

害獸又ハ猛獸ニ關スル刑法ノ規定ヲ適用スルコトヲ妨ガ

ズ。

牧畜

第五十八條 里道又ハ普通市町村道ニシテ一般通行ニ關係

ヲ有セズ且ツ縣令ヲ以テ周知セシメタルモノヲ除クノ外

公道ニ於テ各種動物ヲ牧養スルコトヲ得ズ。

2 之等ノ動物ハ之ヲ繫留シ置クベシ。

第七章 經過規定及ビ雜則

本則ノ違犯

第五十九條 本則ノ規定ニス對ル違犯ハ、現行法令ノ定ム

ル所ニ依リ調書ヲ以テ之ヲ檢證シ、管轄裁判所ニ之ヲ訴

追スベシ。

本則ノ適用期日

第六十條 本則公布ノ際現ニ使用スル車輛ニ付テハ、左ニ

掲グル期日迄本條ノ規定ニ依ラザルコトヲ得。

千九百二十四年六月一日迄

特定ノ自動車ノ後寫鏡備付ノ義務ニ關スル第二十二條

ノ規定

自動車ノ特殊點燈ニ關スル第二十四條ノ規定

千九百二十年六月一日迄

輪帶ノ寸法及ビ性質ニ關スル第二條ノ規定

車輛ノ幅員並ニ車軸端、車轂又ハ制動機關ノ突出ニ關ス

ル第三條ノ規定

2 経過期間中ハ千九百二十一年五月 十七日令公布前ニ施行セラレタル規則ノ定ムル所ニ依ル

除、外、例、

第六十一條 本則ハ公道ノ敷地ヲ使用スル軌道又ハ之等ノ軌道ノ經營ノ用ニ供スル車輛ニ關シ之ヲ適用セズ。之等ノ軌道又ハ車輛ハ仍ホ當該特別規則ノ定ムル所ニ依ル。

2 本則第二十一條(第二項) 第二十二條(第四項) 及ビ第二十三條乃至第三十條ノ規定ハ、農業又ハ工業ノ用ニ供スル自動器具ニシテ貨物又ハ該器具ノ使用ニ必要ナル運轉者若クハ人夫以外ノ人ノ運送ノ用ニ供セズ且ツ其ノ進行速度毎時十「キロメートル」ヲ超ユルコトヲ得ザルモノニ關シテハ之ヲ適用セズ。

知事及ビ市町村長ノ職權

第六十二條 本令ノ規定ハ知事及ビ市町村長ガ法令ニ依リテ委任セラレタル職權ノ範圍内ニ於テ公共ノ安寧又ハ秩序ノ爲必要ナル場合ニ、本則ノ定ムル所ヨリモ嚴重ナル

處置ヲ命ズルコトヲ妨グルコトナシ

廢止規定

第六十三條 運送ノ取締ニ關スル千八百五十二年八月十日令及ビ千八百五十八年二月二十四日令、雪解柵ノ設置ニ關スル千八百六十三年八月二十九日令、自動車ノ通行ニ關スル千八百九十九年三月十日令、千九百一年九月十日令及ビ千九百十九年九月四 令、通行運送取締規則ニ關スル千九百二十一年五月二十七日令及ビ千九百二十二年八月三十一日令並ニ總テ本則ノ規定ニ牴觸スルモノハ之ヲ廢止ス。

本令ノ施行

第六十四條 内務大臣、大藏大臣及ビ土木大臣ハ各其ノ所管事項ニ付本令ノ施行ヲ擔任ス。本令ハ之ヲ官報ニ公告シ法令全書ニ登載スベシ。

完